

かぼちゃ（おもちゃかぼちゃ）の栽培

ウリ科カボチャ属 小型～大型、白・オレンジ・緑など様々な種類があります。

適地

日当たり通風、排水がよい圃場を選びます。

作型

4月～5月に播種、5月～6月に定植、8～10月に出荷

〈播種・育苗〉

催芽を行うことで発芽が揃います。

湿らせた布やペーパーで挟み、22～25℃を保ちながら1日～2日程管理すると、発芽孔が割れてきます。発芽孔を下に向け、育苗箱またはプラグトレイに挿していきます。根が出ている場合は、根を傷つけないように、穴を空けておいてから埋めて下さい。

本葉展開前にポットまたは大きめのプラグ（50穴などで小苗定植）に移植します。

ポット育苗の場合は本葉がかさならないように広げます。プラグ育苗の場合はあらかじめ、1つおき等で育苗を行うとスペースが確保出来ます。

〈定植〉

定植前に苗を露地に置き慣らしておきます。十分に気温が上がってから行います。

株間 0.8～1.0m 畝間 3.0m ほど

つるが伸びる方向を確認しながら植えます。

風が強い日は避け、バオバオなどでトンネル被覆すると初期生育が安定します。

施肥：元肥として1アール当たり分量で窒素・リン酸・カリを各0.8～1.2kg程与えます。

※土壌診断を行ってから調整することをお勧めします。

追肥は生育を見ながら加減して下さい。

〈つる整理、つる誘引〉

観賞用の場合は放任が多いですが、孫つるの整理、誘引を行うことにより着果・肥大のコントロールが可能になります。

〈着果〉

晴天が多いと放任で順調に着果します。ミツバチを放ち受粉・着果を促すこともあります。

地面に実が触れた状態で肥大していくと着色が不均一になったり、形が悪くなったりします。

大型品種は敷き皿、小型品種は敷き藁などの工夫により改善します。

〈収穫・出荷〉

ヘタ（ハンドル）部分がコルク状にひび割れたところが目安です。着色状況も見ながら収穫して下さい。

収穫後は1週間～10日ほど乾かし、その後、汚れを落とし出荷となります。良い状態で収穫・出荷したものは、数ヶ月間の鑑賞が可能です。

〈病害虫〉

ウドンコ病、アブラムシ、ハダニに注意して下さい。